



コミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)は、大学の理念「違いを共に生きる」に込められた想いを受け継ぎ、「地域に根差し、世界に開く」という姿勢で教育・支援を行っています。学生が地域の様々な人と幅広い活動に励み、自己を成長させる生きた学びが得られるようにサポートしています。

2014年度は特に、「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」が11月に名古屋市で開催されたことから、ESDに関連したボランティア活動や自主企画が多く見られました。

2014年度の活動の一部を、以下の通り報告いたします。

### CCC開設科目

地域の社会貢献活動に学生が段階的にチャレンジできるよう、地域社会の人々と積極的に関わったり、また地域社会を取り巻く環境やその問題を見出したりと、様々な体験学習ができる授業を開講しています。

### コミュニティ・サービスラーニング

#### ■ 企業のCSR活動

ブラザー工業の社会貢献活動への参加などを通じてCSR(企業の社会的責任)の仕組みを学ぶとともに、「愛知淑徳大学のSR」に関する提案をしました。



#### ■ 地域メディア実践

地域に寄り添うメディアのあり方や、自分たちの関わりについて体験的に学ぶ授業です。今年度は人権尊重をテーマに名東区で活躍する人々への取材と冊子制作を行いました。



### 学生の自主活動

学生団体「ちゃっちる(Challenged Children)」は障がいのある子もいない子も共に交流する機会を提供したいという思いで活動しています。今年度は日進市制20周年記念市民公募事業補助金の交付を得て、日進市内各所にてアイスクリーム作り、ハロウィンパーティー、クリスマス会などを開催しました。

#### 学生の声

今年度は日進市制20周年にちなみ、二十歳を迎えた愛知淑徳大生にも、「ハタチのボランティア“ハタボラ”」として参加してもらい、障がいのある子とない子が同じ場で楽しい時間を過ごせるように、協力し合いながら実施しました。どの企画も、子どもたちだけでなく私たち自身も楽しむことを忘れず、安心・安全に活動ができるように工夫をしました。子どもたちの笑顔が見られ、親御さんから感謝の言葉をいただいたことで、この活動をやって本当に良かったと感じ、これからも続けていきたいと思います。

福祉貢献学部 福祉貢献学科社会福祉専攻 3年 磯村絵理



### ESDへの取組み

「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」開催にあたり、「ESDあいち・なごや子ども会議」での子どもたちのサポートや、フォーラムでの発表、代表団の方々のアテンド、会場の運営サポートなど、約20人の学生が幅広く活躍しました。

#### 学生の声

私は「ESDあいち・なごや子ども会議」において、子どもたちの学習サポーターを務めました。一番印象に残ったことは、たった3か月で、ESDについて何も知らなかった約120人の子どもたちが、学習と討議を重ね、大人に対して自分の意見を訴えかけられるほどに成長したことです。

私はこの活動を通して、子どもたちから多様な考え方を学びました。私も子どもたちに負けず、社会人になっても常に自分ができることを考え、行動に起こしたり、学んでいこうと思います。

交流文化学部 交流文化学科 3年 伊藤里奈



### CCC学生スタッフ企画「ESDサロン」

「持続可能な社会とは?」「私たちにできることは?」をテーマに、学生スタッフが中心となり、身近に学べる「ESDサロン」を開催しました。



	テーマ	タイトル
第1回	国際	フェアトレードを通して世界を感じよう!
第2回	地域おこし	設楽町ってどんな所だろう?地域を知ろう!
第3回	防災	未来のために今考えよう、これこそESD!
第4回	多文化共生	様々なひと・いきものが共に生きるって?
第5回	まとめ&発表交流会	これから私たちにできること